

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 31 年度

市町村名	新座市					
提案事業名	ブラジルオリンピック選手団の事前トレーニングキャンプ誘致&オリンピック・パラリンピック気運醸成事業					
事業期間	平成30年度 ~ 平成30年度					
成果指標	(成果を検証する指標) オリンピック・パラリンピック気運醸成事業への参加人数					
	(成果検証の具体的な方法) オリンピック・パラリンピック気運醸成事業への参加人数の増加を分析する。					
	(成果の目標値に対する実績)				達成度	A
	従前値 (29年12月現在)	297	目標値 (31年3月時点)	1600	実績値 (31年3月時点)	20,225
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)		稼働率 (%)	(目標) (実績)	
住民への公表状況 及び特記事項		市ホームページに公表する。				

【事業効果の整理・原因分析】

平成30年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 市内装飾による気運醸成（シティドレッシング）事業	○	東京2020大会の祝祭感の演出として、市内商店会の街灯にフラッグを掲出した。市内での射撃競技の開催を周知するものとして、気運醸成の一助となった。
② 気運醸成イベント（講演会・競技体験会）	○	オリンピック・パラリンピアンを招き、トークショーを実施し、また、デモンストレーションを交えた競技体感イベントを通じて、会場市として市民の一体感を高めた。
③ 新座市民まつり産業フェスティバルでの大会PR事業	○	産業フェスティバル内で実施したビームライフル体験において、射撃競技開催及びホストタウン相手国であることを周知することができた。 年齢を問わず、多くの方に競技体験に参加してもらうことができ、会場自治体としてのPRを十分に行うことができた。
④ ビームライフル体験会	○	射撃会場自治体合同イベントとして、ビームライフル体験会を実施し、競技体験を通じて、射撃競技への理解を深めるとともに、大会気運の醸成に寄与することができた。
⑤ 市内小・中学校におけるオリンピック・パラリンピック教育	○	東京2020大会を契機として、多様性への理解を深めるため、市内小学校において、パラアスリートを講師とした体験型授業である「LIXIL義足体験教室」又は「あすチャレ!スクール」を実施した。
⑥ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会新座市推進委員会	○	大会の成功に不可欠な要素（射撃競技、ボランティア、ホストタウン制度等）について様々な観点から理解を深め、また、ホストタウンの相手国となっているブラジル連邦共和国とゆかりの深い自治体への視察を行うなど、オリンピック・パラリンピックへの理解を深めることができた。 ただし、多くの市民が参加できるイベント等ではないため、参加人数への実績値に反映できるものではない。

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	東京2020大会まであと2年という時期であり、会場自治体としてイベントの実施や、また関係イベントへのPRブース出展などを通じて、多くの方に大会のPRをを実施することができた。 併せて、ブラジルのホストタウン及び事前トレーニングキャンプ開催地であることも周知することができた。
--------------------------	--

<p>実施事業について 成果が不十分である点</p>	<p>イベントへの集客という観点では、オリンピック・パラリンピックに特化したイベントの実施よりも、幅広くスポーツ、福祉などのイベントへのPRブース出展の方がより効果的と考えられる。 また、ブラジル連邦共和国のホストタウンになっていることや市内での事前トレーニングキャンプの実施については、東京2020大会の認知度と比較すると、認知度が低く、PRを強化していく必要がある。</p>
<p>成果検証を踏まえた 今後の改善策</p>	<p>オリンピック・パラリンピック事業については、平成31年度以降もPRの強化、内容の充実を図るとともに、更なる大会気運の醸成や会場市としての新座市の認知度の向上、シビックプライドの醸成につなげていく。また、ブラジルの事前トレーニングキャンプの受入れに向けて、環境整備を進めるとともに、テストキャンプの際の交流事業などを通じて、市民の認知度向上を目指す。</p>

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合

$$\text{実績値} \geq (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合

$$(\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値} \leq \text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合

$$\text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値}$$

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(O・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果O」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない